

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

～笑顔いっぱい 夢いっぱい 未来を創る東っ子～
 ○学ぶ楽しさを知り、粘り強く学習に取り組む子を育てます。(知)
 ○自分と友だちを大切に、豊かな心をもった子を育てます。(徳)
 ○心と体を鍛え、自ら心と体の健康づくりを進んでする子を育てます。(体)
 ○「まち」とのふれあいを大切に、共に生きる子を育てます。(公)
 ○さまざまな社会の変化に、柔軟に対応できる子を育てます。(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

《問題発見・解決》	具体化した資質・能力
《心身たくましく生きる力》	願いをもつ協調的に解決策を見だし実行する能力 健康な生活を営むための基本的な生活習慣 他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 伝え合うことで自分の考えを深化させる力
《自分づくりに関する力》	

中期取組目標

○全職員が学校経営に主体的に参画し、児童や保護者、地域から信頼される楽しく豊かな学校づくりを目指します。
 ・一人ひとりの子どもが、学習の楽しさを実感しながら、主体的に問題解決に取り組む授業を推進し、学力の向上を図ります。
 ・一人ひとりの子どもが、自己有用感をもち、自他との違いを認め、大切にしたいながら安心して学校生活が送れるようになります。
 ・小中一貫ブロック校や家庭、地域と連携して、地域の中できるとともに子どもを育む学校づくりを進めます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①児童の実態をもとに教材研究を丁寧に行い、学習内容、学習方法、指導のねらいなどについて共通理解を図っていく。②学習計画を児童と考え、児童一人ひとりが学習のめあてを意識して学習に取り組ませることで主体的な学びを構築し、資質、能力の育成を図るようとする。
担当	重点推進委員会

学力向上に関わる本校の状況

上の図は、今年度から実施した横浜市学力状況調査の結果である。令和3年度の調査結果から振り返ると、全体的に、横浜市での平均を上回っている学年もあれば、横浜市平均と同等の学力である学年もある。また、学習に対する意識も低い傾向にある学年も半数あることが分かった。そこから、「わかる」楽しさや「できる」喜びを実感できる授業づくりに加えて、自己有用感を高めるために、児童が主体的に学習に取り組みたくなるような授業づくりや学級経営を進めていく必要があると考えられる。

(2)教科学習の状況
 ・国語科：ほとんどの学年で横浜市の平均以上の学習意識の高さが見られた。
 ・算数科：ほとんどの学年において横浜市平均以下の学習意識の低さが見られた。特に、図形に関する問題や、表やグラフを見て答える問題等で正答率が伸び悩んでいた。
 ・社会科：全学年においてどの領域においても全国平均を上回っている。
 ・理科：全学年においてどの領域においても全国平均を上回っている。
 (3)経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析)
 過去3年間国語を中心として「主体的に学びを深め自分の思いや考えを表現しようとする子どもの育成」という研究主題を掲げて研究を進めてきた。そして、令和5年度に向けては、本校児童が学校生活全般や学習において「指示されたこと」はやり遂げる力を持っているが、学びを自分事としてとらえたり、自分事として落とし込み考えたりする力をつけていく必要があると分析した。そこで、令和5年度の教職員の授業研究として、児童が主体的に取り組む学級経営をもととして、児童の自己有用感を高めることにつなげていきたいと思う。

今年度の目標

それぞれの教科で、一人ひとりが課題を発見し、体験的な活動などを通して、課題解決していく力を高めていく。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
(1年生)生活科を中心に、児童から出た言葉を気付きや思考のプロセスとして大切に、他者(先生や上級生など)との関わりを通して、主体的に学習に取り組む機会を設ける。 (2年生)生活科をはじめとして各教科で、体験を通して考えたことを文章に書いたり、話したり、聞いたりする表現活動を大切にしている。 (3年生)学習の中で、考えを整理したり、他者に伝えたりする手段として、文章に書いたり、話したりする表現方法を大切にしている。 (4年生)国語科を中心に、自ら問題を見つけて、みんなで解決できるように授業づくりをしていく。 (5年生)国語科を中心に、自ら学び、問題を見出して解決していくことができるように授業づくりをしていく。 (6年生)文章の構成を考えたり、資料を準備したりして、自分の考えがより伝わりやすくなる表現方法を工夫する。 (個別支援級)相手を意識して、自分の思いを選択したり、話したり、書いたりする表現活動に取り組む。	(1年生)年間を通して、ペア活動、仲間づくり活動を行い、安心して生活し、自己表現できる環境を整える。 (2年生)学習の喜びを実感したり、自信をもって学習に取り組んだりできるよう支援することで、学習に対する意識を高めていく。 (3年生)学校が安心できる場所として学習に取り組めるよう支援することで、さらに学習意識を高めていく。 (4年生)課題について、ペアや小グループでの説明や意見を伝えたり聞いたりする表現活動を増やし、友達の考えとの共通点や相違点に気づくことができるようにする。 (5年生)根拠を明確にして説明したり、意見を述べたりするなどの活動を大切に、自信をもって学習に臨めるような指導をする。 (6年生)自分の考えについて根拠をもって伝えるときに、他の考えのよさに気付いたり受け入れたりすることで、思考を深めていく。 (個別支援級)個別学習の時間の充実を図り、一人ひとりにあった課題に取り組むことで、学習の楽しさを実感したり、学習への意欲を高めていく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①児童会活動やペア活動など異年齢活動をさらに充実させていくようにする。地域や保護者、福祉施設などの関わりを大切にするとともに、思いやりの心や自己有用感を味わう場や機会をもつようにする。③子どもの実態をもとに特別な教科「道徳」の指導の充実を図る。
担当	道徳部

豊かな心に関わる本校の状況

子どもたちは穏やかで、落ち着いて生活することができており、地域や家庭の協力体制も整っている。自分から進んで関わろうとする意識も高まっているが、相手の気持ちを汲み取って行動することが難しい児童も多い。そのため、児童会活動やペア活動など異年齢活動を充実させる。地域や保護者の協力を得て行われている行事を大切にするとともに、思いやりの心や自己有用感を味わうことができるようにしていきたい。
 また、「あいさつを進んでしている。」と考えている児童は多いが、「いつでも、どこでも、だれとでも、自分から」という教職員の願いからすると、意識のずれを感じる場面も多い。そこで、「自分から」お互いに気持ちのよい挨拶をしていけるよう声かけをしていく。

今年度の目標

体験活動を豊かに行うことを通して、集団や社会の一員であることを実感しながら、思いやりの心や規範意識を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
【項目 道徳教育】道徳科を要した学校の教育活動全体を通じた道徳教育 ・年間指導計画を活用し、学校行事や各教科等、豊かな体験との関連を図った道徳科の指導を行う。 ・全学級の道徳の授業を家庭・地域に公開する。(年1回以上) ・メンターチームの活動等を利用し、指導方法や教材活用方法を研修し、授業力を高めることで、主体的対話的な道徳科の授業を目指す。 【項目 人権教育】「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校風土の醸成 ・YPアセスメントの支援検討会による、教職員の人権感覚・意識の向上を目指す。 ・子どもの社会的スキル横浜プログラムを全校で取り組み、子どもの自尊感情、コミュニケーション力、意思決定や問題解決能力の向上を図る。 ・子どもの自尊感情を育成するために、「わかった」「できた」を感じられ、安心して自分を表現できる授業づくりに取り組む。	【項目 道徳教育】道徳科を要した学校の教育活動全体を通じた道徳教育 ・集会やニコニコふれあいタイムなどの時間を使って、異学年との交流を深め、絆を築く。体験活動を通して他者との関わりや自己を見つめ、集団や社会の一員であることを実感しながら自己有用感を高められるよう、地域や保護者の方々の協力も図り、多様な体験活動を推進する。 【項目 人権教育】「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校風土の醸成 ・上半期同様にYPアセスメントの支援検討会による、教職員の人権感覚・意識の向上を目指し、1回目と2回目のクラス風土を比べ、個人や集団での自尊感情、コミュニケーション力、意思決定や問題解決能力の向上を図る。 ・委員会活動等を通して、あいさつを進んで行うように声かけをしたり、あいさつ運動などの取り組みを計画する。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①委員会活動を中心とした体力向上の取組では、学年に応じて誰でも取り組める運動を取り入れていく。また、地域ボランティアやPTAと連携した「いきいきキッズ」の活動でも引き続き、児童の体力の向上を図っていく。②新体力テストの記録を児童が活用することで、自分自身の問題ととらえ、さらなる実践につなげていく。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 体育・健康に関する実態
 ・休み時間には体を動かして元気に遊ぶことができている。(学年を限定)
 ・体育の授業では、安全にかいっぱい運動している。
 ・いきいきキッズに進んで参加している。互いに協力し、自分の力にあった場を選び、高め合いながら取り組んでいる。
 ・給食の残量が少しずつ減ってきている。朝食の、摂食率も市の平均に比べると高くなっている。
 (2) 今後の見通しについて
 ・休み時間には校庭の使用を制限をなくしながら運動時間の確保を行う。家庭ごとの考えも様々で、下校後は遊びに行かない児童もいれば以前と変わらず夕方まで十分に体を動かす児童もいるなど、全体的に捉えと運動量が十分であるとは断言できない。心の健康面も考慮して、心身ともに健康でいられる環境を整えていきたい。
 ・放課後の子ども運動実施時間が、市の平均と比べると少なく、体力低下が目立つ。地域に外遊びができる空間は十分にあるものの、塾に通っている子どもも多く、体を動かす習慣が十分に身に付いているとは言えない。そのため、よく体を動かす子どもと、そうでない子どもとの二極化が表れているのが現状である。学校では子どもが進んで体を動かしたくなるような、環境整備、意欲付けを併せて行っていきたい。
 ・自分の体力について知る機会が少ないので、積極的に新体力テストの記録を参考に、体育の授業で生かせるような指導を目指す必要がある。

今年度の目標

日々の体育学習やスポーツ委員会の運動集会、朝の体力アップ、中休みのいきいきキッズなどの取組を通して、子どもたちが運動の楽しさを感じ、毎日の遊びに取り入れ、体力の向上につなげることができるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
《体育科・保健体育科での取組》 <体育学習> ・順番やきまりを守り、より楽しむためのルールを工夫して、他者との豊かな関わりをもちながら運動できるようにする。 ・適度な運動の必要性や基本的な生活についての知識をもち、行動できるようにする。 ・新体力テストの結果を把握し、子どもたちの体力の向上につとめる。 ・学習カードや個の課題にあった場を設定するなど、工夫した授業づくりをする。 ・発達段階や個人差を踏まえた一人ひとりを見た指導をする。 《教科外での取組》 ・運動の楽しさを知り、習慣化させる取り組み・指導を行う。 ・短な運動を取り入れ、子どもたちが運動に親しみ、自分の記録にチャレンジするなど意欲的に運動に取り組もうとする態度を育てる。朝の時間を活かし、体力の向上を目指すとともに、協調性や、団結力を高める。 ・運動会では、体育科で培った、短距離走や表現運動の資質能力をさらに伸ばすために、各学年での演技指導や短距離走の指導の充実を図る。 ・おやじの会主催のキックベース大会へ積極的に参加できるようにする。	《体育科・保健体育科での取組》 ・運動する場所や用具の安全を確かめ、めあてに向かって最後までやり遂げようとする。 ・ICT機器やデジタル教材を使って、動きを視覚でとらえることができるようにする。 ・発達段階や個人差を踏まえた一人ひとりを見た指導をする。 《他教科での取組》 ・家庭科では、食育との関連を図り、学校の充実を図る。 《教科外での取組》 ・体力だけでなく、お互いの状況や思いを理解し、コミュニケーション能力の向上を目指す。 ・食育では、日々の食事や給食を通して、①食事の重要性②心身の健康③食品を選択する能力④感謝の心⑤社会性⑥食文化を身につける。 ・おやじの会主催の昔あそび大会へ積極的に参加できるようにする。 ・地域のダブルタッチ団体「ZERO」の方々と保護者のボランティアの方、または子どもたちで、長縄・ダブルタッチの縄をまわし、中休みを利用して跳ぶ練習をする。中休みにはマラソン大会や短縄を実施して、体力向上や運動に向かう姿勢の向上を図る。